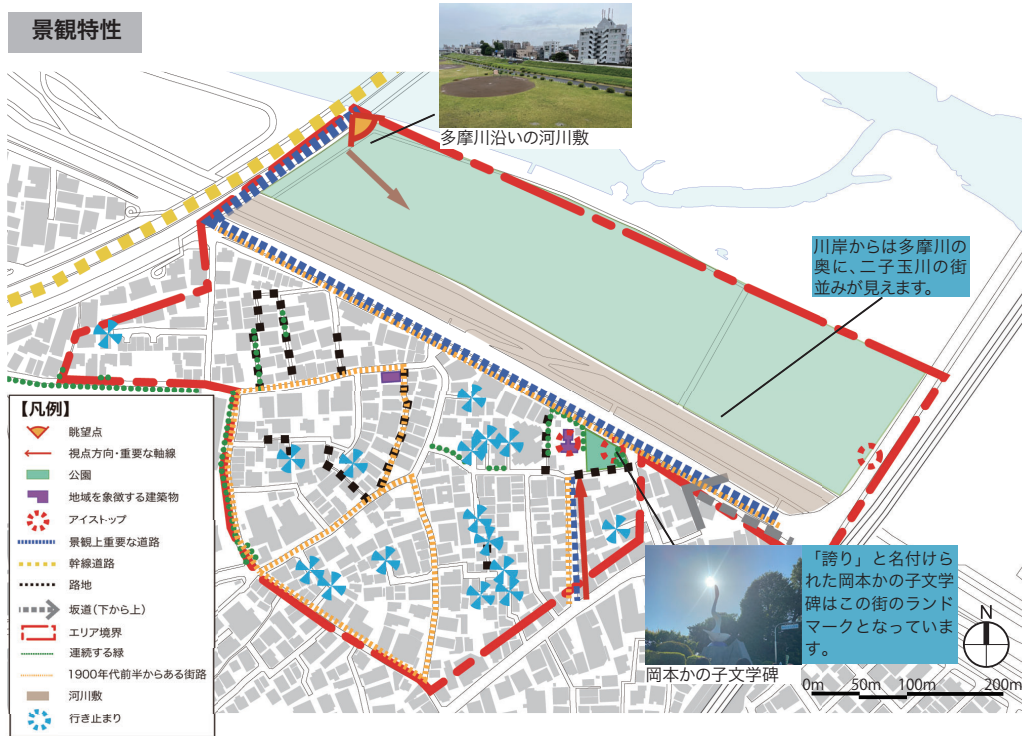


3-2 二子1丁目北側エリア

二子1丁目は二子神社や岡本かの子文学碑、料亭やよいなど古くから残る歴史資源がエリア内に点在しており、二子橋や国道246号など多摩川を渡るための橋もあり、エリア内外を橋の上から見渡せるエリアです。大山街道から二子神社に向かう参道とそれに並行する街路や、道路の拡幅が行われた痕跡などもあり、エリア全体として不規則な街路が形成されています。また、料亭やよいやその他の古い建築物と新たに建て替えられた住宅の新旧建築物が混在しているエリアとなっています。

景観特性



1. 歴史資源がもたらす落ち着き



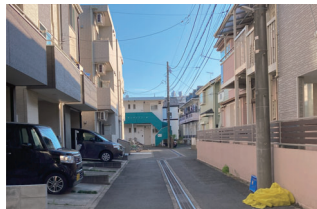
二子神社と周囲との関係性として古くから残る参道と神社を残し、その周辺で宅地開発が進んでいきました。二子神社や岡本かの子文学碑などの歴史資源やその周辺の緑が住宅街に落ち着きを与えています。

2. 住宅密集と街路幅による圧迫感



本エリアでは低層の住宅が並んでおり、住宅が密集し、さらに街路幅が狭くなっています。そのことによって宅地間で狭い路地が多く見られます。また多くのからまった電線も見られ、総じて全体的に圧迫感のある景観となっています。

3. エリア内に見られる袋小路



このエリア内では住宅が密集しており、歩くと行き止まりのある箇所が多く見られます。また不規則な街路が形成されており、幅員のある街路と行き止まりのある街路が入り乱れている箇所が多いという特徴があります。

景観形成の目標

住宅地と歴史資源の調和した景観を形成する

本エリアは、低層の戸建て住宅が密集している中で、二子神社や岡本かの子文学碑などの歴史資源が混在した閑静な街並みが特徴となっている。本ガイドラインではこの歴史資源を保全し、住居と共存する街並みの創出を目標とする。

景観形成の方針

1. 神社とまちを調和させた景観をつくる

景観形成の考え方

二子神社と岡本かの子文学碑に隣接する公園の緑を活かした緑視率の高い景観を形成する。

具体的な方策

- 二子神社まわりの緑を整備し住宅との連続性をもたせる。
- 参道に直行する道路は拡幅が行われているため、電柱は敷地境界に寄せ、路駐禁止などの規定を設け見通しを妨げない工夫をする。
- 神社周辺の緑は色彩を落とし周囲で調和させる。



二子神社参道

2. 宅地密集を活かした統一感のある街並みを形成する

景観形成の考え方

低層の戸建て住宅が密集している景観と電柱・電線の整備を行い視認性を向上させる。

具体的な方策

- 道路沿いにある植栽は道路を覆う高さのものは避け、アイレベル程度の高さで統一する。
- 宅地密集により狭い道路には段差を作り歩道と車道を明確にして安全面にも配慮する。
- 電柱を道路の片方に寄せるのではなく、両側に交互に配置することで道路上空を横切る電線の数を減らす。



住宅が密集している街路

3. 袋小路を活用した街並みを形成する

景観形成の考え方

エリア内に点在する袋小路を活かした緑ある街並み形成を図る。

具体的な方策

- 袋小路に面している部分には植栽を配置し緑ある街並みを形成する。
- 街路が交わる角の部分を隅切りすることで視認性を高め、死角をなくす。
- 高さを揃えた街灯を設置し、暗い夜道への配慮をする。



エリア内に点在する袋小路